

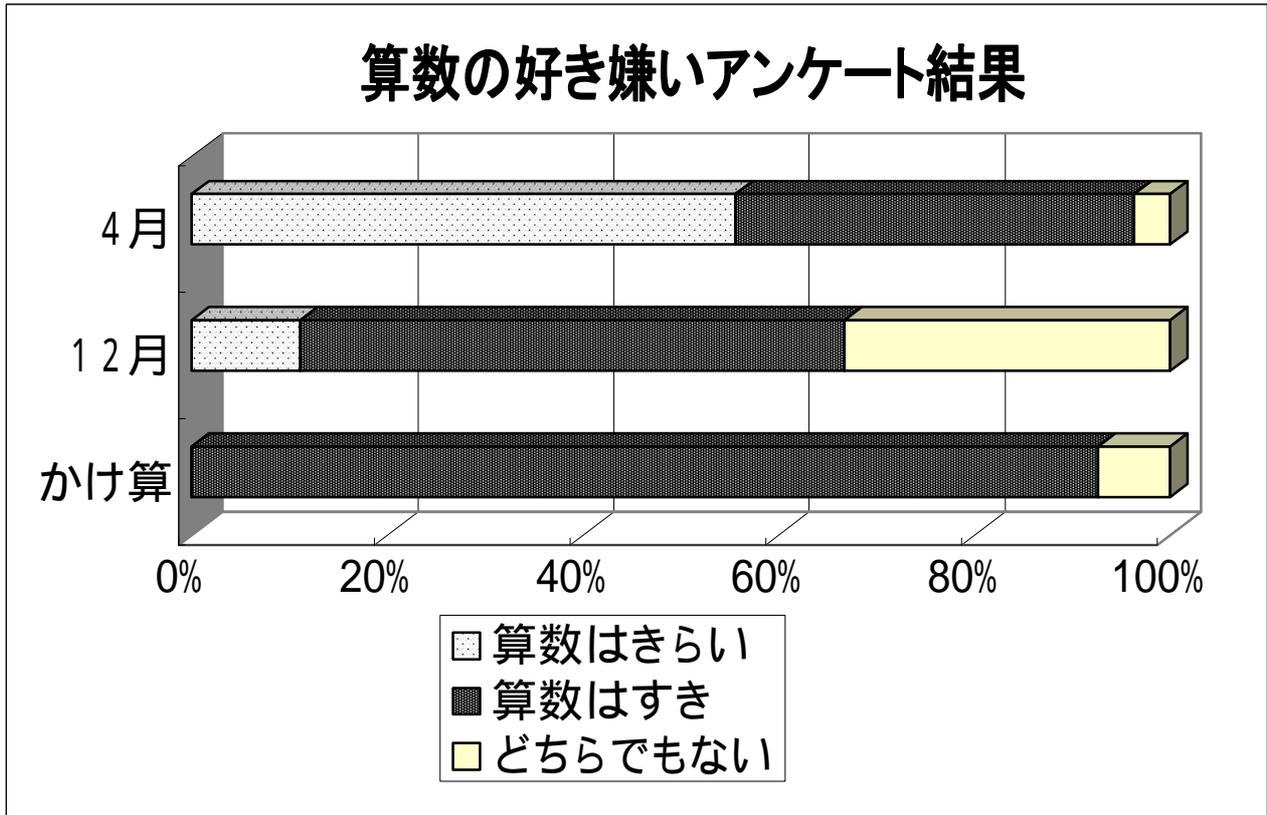
成果と課題

成果

「かけ算[1]」「かけ算[2]」「かけ算九九のひょう」「わくわく算数 ぜんぶでなんこ」のかけ算に関わる単元が全て終わったときにアンケートをとった。

算数は好きかというアンケートに対し、大好き11人、好き4人、ふつう9人、嫌い2人、大嫌い1人という答えが得られ、総じて好きの方が多い結果となった。

また、かけ算は好きですかというアンケートに対して、大好き4人、好き21人、ふつう2人で嫌いや大嫌いを選ぶ子はいなかった。



「どうしてかけ算が好きですか?」というアンケートに対しては、やりやすい、つかいやすい、おぼえやすいという乗法九九の利便性を挙げる児童が11人、また授業での九九のひみつ見つけが楽しかった、おもしろかったと答えた児童が7人、他にも授業でやった九九の構成やチョコレートの問題が楽しかったなど授業での楽しさを挙げる児童が8人いた。

そこで、特に何が楽しかったか項目を立てて質問してみた。

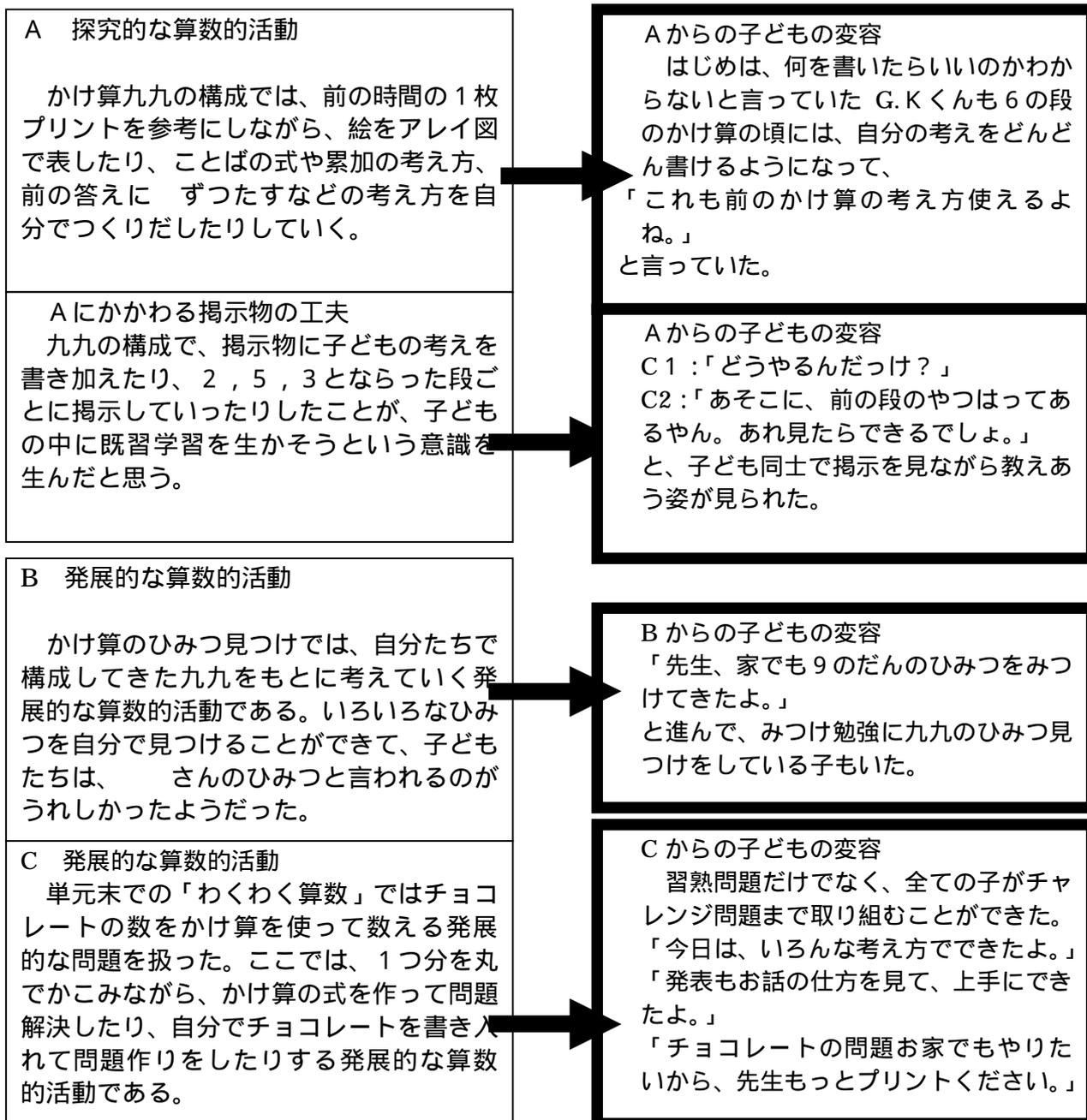
- A かけ算九九の構成 14人
 - B かけ算九九のひみつ見つけ 20人
 - C 単元末でのかけ算を用いて
発展的な問題を解くチョコレートの問題 18人
 - D かけ算九九を唱えること 19人
- という理由が挙がってきた。

以上のようなアンケート調査から、仮説1、仮説2にかかわって

仮説1、系統をふまえ、それに関わる子どもの実態をプレテストによって把握し、適切な学習過程にさまざまな算数的活動を位置付けることによって、楽しさと充実感を味わえる子が育ってきたのではないだろうかと思う。

仮説2、前時との違いを比べて考えられる掲示物など、環境整備をしたり、話型を示した1枚プリントを活用したりすることで、既習内容と比べて話せる表現豊かな子が育ってきたのではないかと思う。

子どもの変容は、以下のようである。



自分から進んで学習しようとするようになり、わかった、できたという充実感を味わえるようになった。その結果、算数が好きな子が増えたと考える。

課題

算数は好きになったが、まだ単元の評価規準に達することができない子がいる。今後さらにそうした子に対して、個別指導をいかに進めるか、他の子と同じ学習過程の中での「個別指導」のあり方について究明していきたい。